



アカウントビリティを考える 公共政策論からの情報学への提言

京都大学経営管理大学院・
大学院工学研究科
小林 潔司



Accountability (アカウンタビリティ)

The term **accountability** is used extensively in public administration literature but suffer from imprecise meaning. It is probably best understood in the context of **stewardship**, but it has been developed more recently within the context of performance auditing.

(GASB)

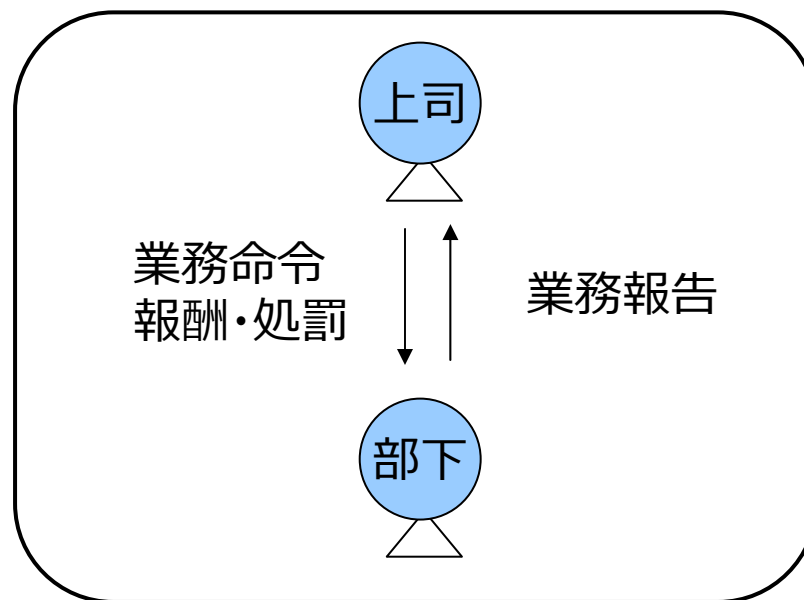


Stewardship (スチュワードシップ)

The willingness to be accountable for the well-being of the larger organization by operating in service, rather than in control, of those around us.

(Peter Block)

委託 - 受託関係 (アカウントビリティ)





アカウントビリティ概念

受託者 (X) が委託された行為 (Z) について
委託者 (Y) に説明可能である

X is accountable for Z to Y



公的アカウントビリティの複雑性

- X problem of many hands
- Y problem of many eyes



アカウントビリティの構造

- 意味の構造(structure of meaning)
- 正統性の構造(structure of legitimacy)
- 支配の構造(structure of governance)



意味の構造

行政と国民の間言葉、概念、認識体系のずれ

行政・・・社会基盤整備に関わる専門的な用語を用いて
整備内容を認識する

国民・・・社会基盤の利用者, 地域の生活者として, 日常
的な用語を用いて認識する

専門家と普通の人とのコミュニケーションをいかに達成するか？



コーパス (corpus) の概要

□ 討論参加者 (発言数298)

- 1) 座長 2名 (発言数90)
- 2) 有識者 2名 (発言数34)
- 3) 賛成派市民グループ 1名 (発言数18)
- 4) 反対派市民グループ 5名 (発言数118)
- 5) 行政グループ 3名 (発言数38)

参加者発言のファセット分類

A: 方向 (どうする)	B: 関係 (何を)	C: 対象 (何について)		
A1 強化 報告・説明・確認・提案・要求・合意・賛成	B1 科学的考察 予測・安全性	C1 社会	C11 行政 (4)	
	B2 統計的事実 統計データ・記録・歴史的変遷		C12 地域・自治 (1)	
A2 抑制 否定・反論	B3 経験的事実 体験・聞き伝え		C2 自然	C13 有権者 (1)
	B4 過去の契約的事実 過去の約束事・行政活動			C14 マスメディア (1)
A3 中庸	B5 将来の契約的事実 将来の取り決め・意図・将来計画	C3 主対象施設 (2)		C21 自然状態 (2)
	B6 個人的・心理的なこと 不安・信頼		C4 関連事業	C22 自然現象 (11)
A4 その他 質問等		C5 その他 (2)		C23 自然災害・被害 (8)
		C41 調査 (11)		
C42 数値計算 (9)				
C43 ミティゲーション (6)				
C44 災害復旧・補償 (4)				

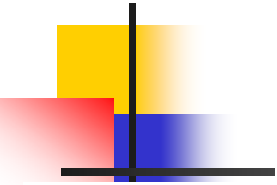


参加者発言のファセット分類例

- 参加者A:「... (自然災害Xについて) そして、橋梁施設Yが第一番目の障害物であったわけです。高波が上がってくるときの妨害物であった。そしてその妨害物がどういふことを作用したかということ、町Zの町民が1人経験しております。...」

A1	「強化・賛成」
B3	「経験的事実(橋梁施設Yの高潮障害)」: 障害有(+)/障害無(-)
C23(3)	「自然災害X」

ファセットBの発言頻度

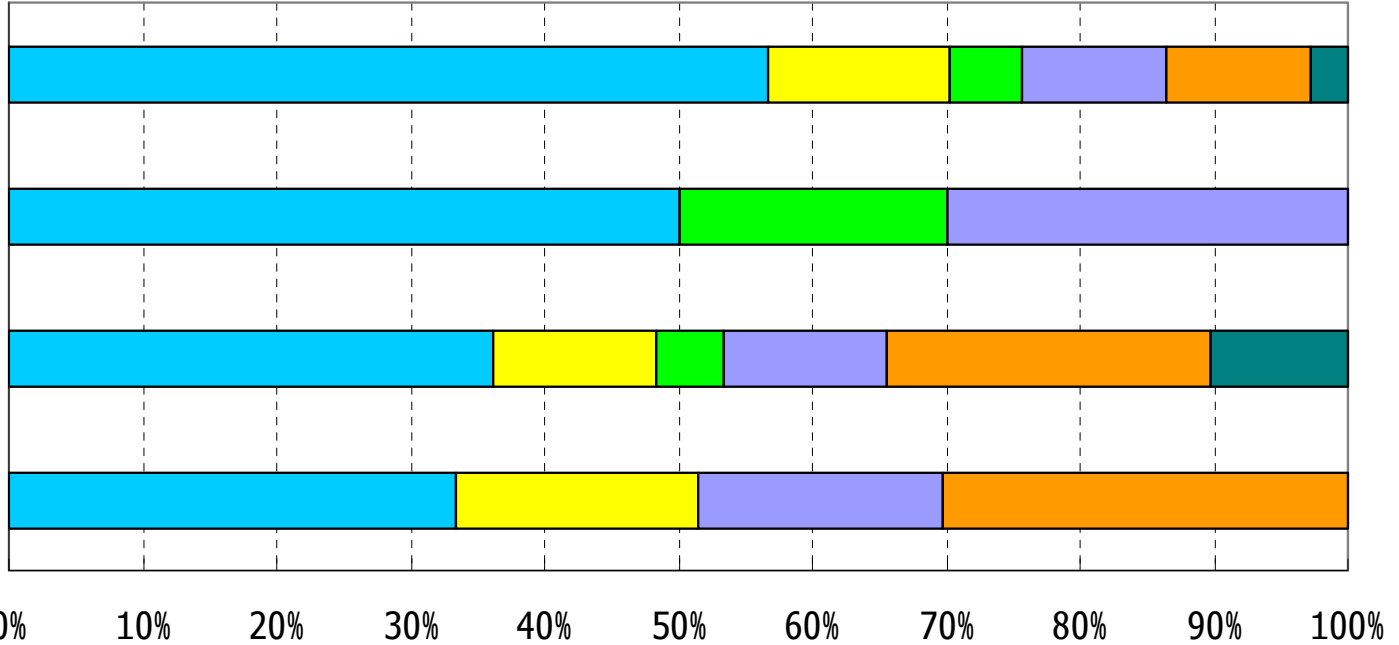


グループ2
有識者

グループ3
賛成派市民

グループ4
反対派市民

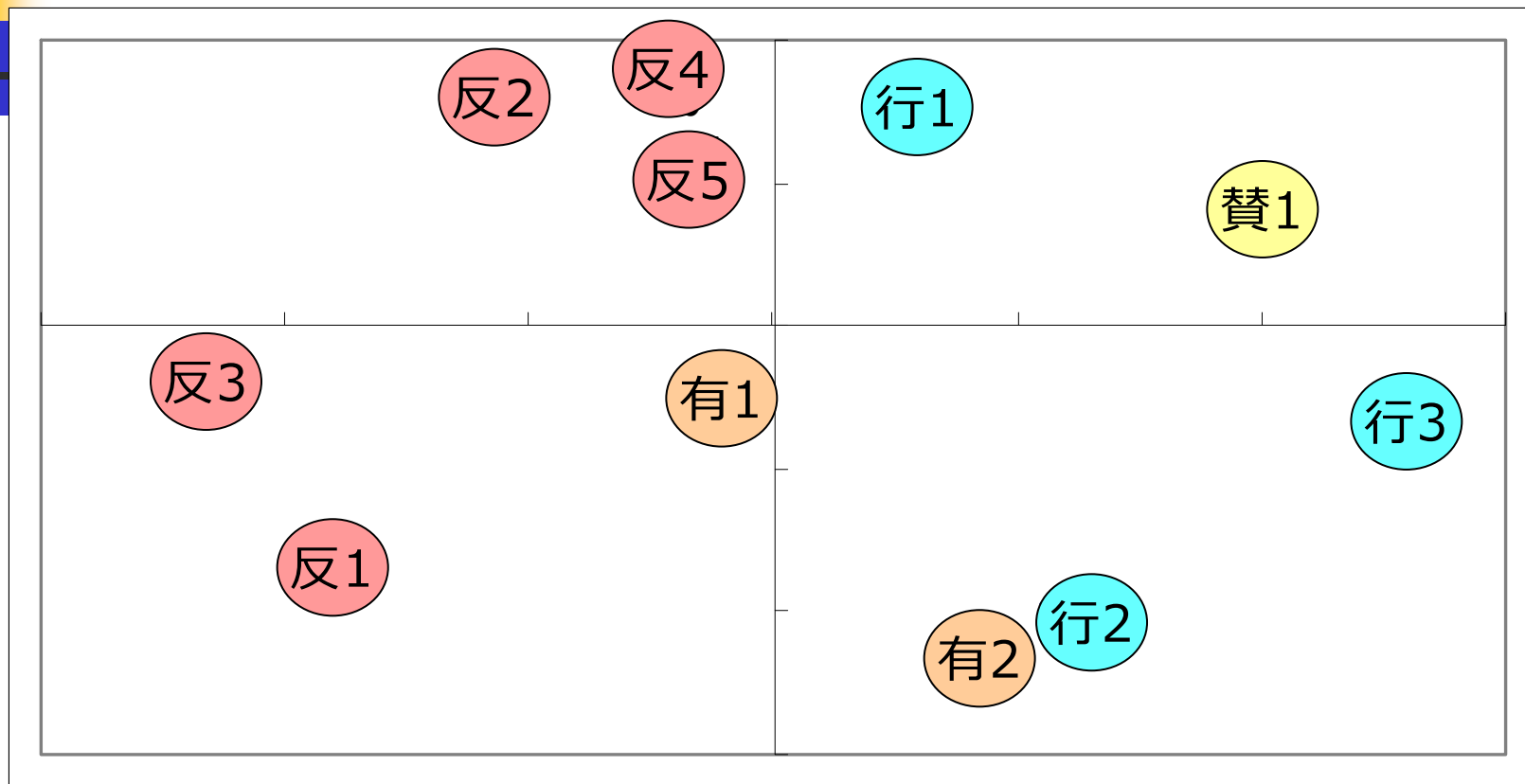
グループ5
行政



発言頻度



ファセット分類に基づく参加者の空間的配置



(ストレス $S=2.653948e-001$)

有 : 有識者の発言 行 : 行政の発言 賛 : 賛成派市民の発言 反 : 反対派市民の発言

会話パターンの内容分析

会話パターン		特徴
会話パターン1 (7)	譲歩ケース (2)	行政や有識者が反対派市民のファセット項目に自分の発言を適合させる
	展開ケース (5)	「ファセットA3(中庸的意見)」が発言されるより詳細な事項へと議論が深化する
会話パターン2 (5)	ファセットBのズレ (4)	科学的判断の厳密性と適切性のジレンマ問題
	ファセットCのズレ (1)	利害対立の顕在化
会話パターン3 (10)	「ファセットB1」や「ファセットB2」の真偽をめぐる対立 (7)	科学論争
	「ファセットB4」の真偽をめぐる対立 (3)	過去の経緯に関する情報の曖昧性が原因

※ 括弧内の数字は各ケースが生起した回数



正統化の構造

「さまざまなステークホルダーの要求が存在する中で、だれの意見が正統性を持つのか？」

ある主体およびその行為を, 規範, 価値, 信念, 定義等が社会的に構造化されたシステムのなかで, 望ましく妥当であり, あるいは適切であるという一般化された認識

(Suchman, M. C. 1995)



3つの正統性概念

1) 実用的正統性

ある主体の行為がそれに関連する人々の利益の増進につながるかどうかに基づく正統性

2) 道徳的正統性

行為が正しいかどうかという評価に基づく正統性

3) 認識的正統性

社会的に必要性が認識されることに基づく正統性



認識正統性の基準

- 理解可能性 (Comprehensibility)
- 当然性 (take-for-grantedness)



専門知識の正統性

- 厳密性 vs 適正性
- 「であること」vs「であるべきこと」



支配の構造

委託者 (Y) が受託者 (X) が行為 (Z) を行う
ことに関する期待……………信頼

- 判断に必要な知識をどのように獲得するのか？
- 誰の言うことを信じるのか？

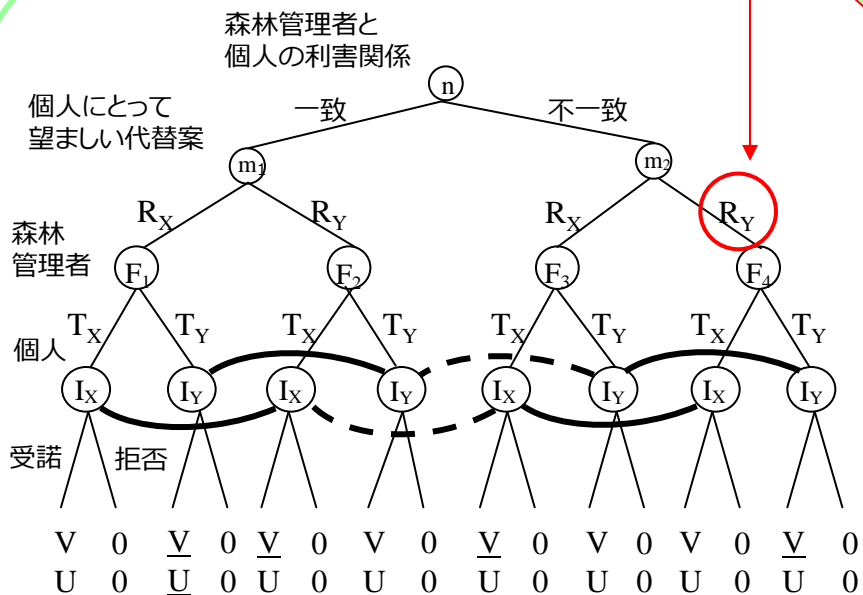


コミュニケーションはいかに可能か？

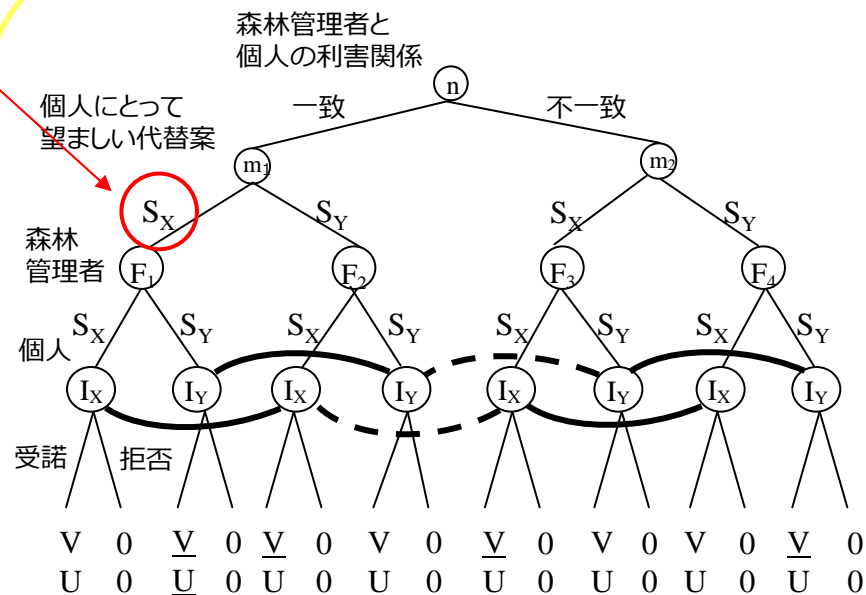
- 人は**どのような時**に他人の言うことを信じるか？
- 人が**なぜ**そのようなことをいうのかが理解できるときに信じる

主観的ゲーム

異なる言語ラベル



a) 管理者の主観的ゲーム



b) 個人の主観的ゲーム



信頼形成の制度設計

- 委託—受託関係
- Audience (観衆) の前で演じられるゲーム
PFI・PI